

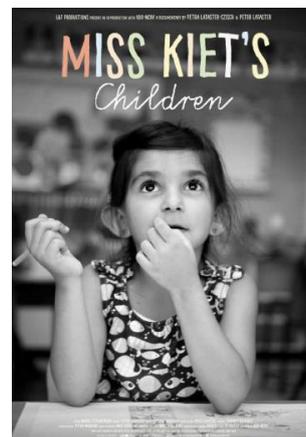
ユニセフ・シアター キッツ先生の子どもたち 報告

とき 2024年7月21日(日) 10:30~12:30

ところ 岩手教育会館 多目的ホール

後援 岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、滝沢市教育委員会

参加 118名 募金額 19,565円



この映画は、オランダにやってきた移民・難民の子どもたちとキッツ先生との日々を追ったドキュメンタリー映画です。



守谷会長あいさつ



受付



会場の様子



ロビーにてユニセフ支援グッズやポスター展示

来場者の感想

- ・1つの言葉を話すだけでも大変なのに避難先の国の言葉を覚える子どもたち、それを支える先生たちも大変だと思いました。世界の子どもたちが笑顔で授業を受けられるように支援したいと思いました。
- ・キッツ先生の平等な愛が感じられました。子どもたちには紛争による心の傷が大きく影響していると感じました。
- ・子どもは等しく教育を受ける権利があるということ、それが保障されていない現実に関心をもちました。一人ひとりの背景に寄り添い、丁寧に向き合い、その子のレジリエンスをキッツ先生の努力に感動しました。
- ・子どもたちがけなげに生きている姿に涙しました。自分の国で苦労せずに育ってほしいのに。
- ・日本では、移民をほとんど受け入れていないため、多文化・多言語への理解が進んでいないのが残念。
- ・大人以上にストレスを抱えている子どもたちへの献身的な姿勢に関心をもちました。
- ・移民・難民問題は、あまり身近な話題にはなりませんが、日本でも様々な国の子どもたちが学ぶようになってきました。子どもに寄り添う大人が大切だし、難民を出さない社会を作るのも大人の役目だと思います。
- ・移民を受け入れるということは、識字教育や心のケアが大きな課題であると分かりました。大人以上にストレスを抱えている子どもたちへの献身的なキッツ先生の姿勢に関心をもちました。
- ・心が傷ついている子どもたち一人一人にしっかりと向き合い、子どもの良さを引き出し、笑顔に変えていくキッツ先生。子どもの人権を大切にする教育に感銘を受けました。